

期間 2006年1月10日～3月17日



場所 ブラウジングルーム・AV 資料室
企画 高田涼子（国立音楽大学附属図書館員閲覧参考部）

アンデルセンに魅せられて ～ 生誕 200 年を祝して～



アンデルセンを読めば、ロマン派がわかる。あなたの音はもっと良くなる。

世界で読み継がれている童話作家で有名なアンデルセン。
しかし、当時は詩人や戯曲作家として名を馳せていた。



アンデルセンの時代は、宗教が個人を支配した封建制度が残る“古い時代”
と、産業革命や国家、市民というものが初めて世界に登場しようとしていた“新時代”の2つの時
代の交錯の時であった。そして、異なる芸術が統合し、溶解されていった時代である。ロマン派
と呼ばれるこの時代の作曲家やヴィルトゥオーゾ(名手)たちと交流があったアンデルセンを、
音楽を通じて改めて見直した。

メンデルスゾーン、シューマン夫妻など、アンデルセンの詩に影響された作曲家はたくさんい
る。逆にリストにおいては、彼に「新時代のオルフェウス」と呼ばれる程インスパイアを与え、ア
ンデルセンの美学形式の基になった。神にささげる音楽から、個人の内面やあるテーマに沿っ
た音楽を作り出そうとしていたロマン派の自由な人間を見つめる音からアンデルセンは何を
感じたのか、様々な音楽家たちとの関わりや影響について、日記や手紙などを通して紹介した
いと思う。

また、アンデルセンの作品は絶えることなく音楽化されている。彼の童話「人魚姫」「みにくいあ
ひるの子」などにインスピレーションを受けた作曲家たちの作品も併せて紹介したい。

「旅は人生」

春霞たちのぼり、

緑一色、

旅は人生。

血が騒ぎ、

陽は照り、花香る。

夏風やさしくそよぐ。

さあ、出かけよう、帆を上げて、

旅は人生。

37歳の時の作品

アンデルセンの時代には、盗賊が山野で
待ち伏せしていたり、宿泊宿が火災にあったり、
旅路に動物の死体が横たわっていたりと、
決して快適で安全とは言えない旅だった。

CONTENS

アンデルセンのエピソード-----2

アンデルセンの作品-----3

- ・アンデルセンの作品を題材にした音楽
- ・アンデルセンの作品に影響を与えた音楽
- ・アンデルセンの作品から

インスピレーションを受けた音楽

アンデルセンと作曲家たち-----8

コペンハーゲンの劇場について---11

参考文献-----12

アンデルセンのエピソード



Hans Christian Andersen

ハンス・クリスチャン・アンデルセン

(1805年4月2日デンマーク、フン島オーデンセ生まれ～1875年8月4日)

デンマーク語読みでは「ホー・セー・アンナセン」と呼ばれる。ありふれた姓。



オーデンセで過ごした少年時代

美しい歌声から、“小さなフンのナイチンゲール”というニックネームで呼ばれていた。11歳の時に靴職人の父親が亡くなりその他諸事情もあり、正規の教育をろくに受けていなかった。1819年9月4日、14歳にしてオペラ歌手になりたくてコペンハーゲンへ行き、オペラ歌手の訓練を受けることになった。アンデルセンの美声を認めたイタリア人の宮廷音楽家シボニー(王立音楽学校の校長)の援助が得られたのだ。話したことはなかったが、作曲家クーラウからも寄附を受けていた。しかし、変声期に入り声がつぶれて挫折。その他、短期間ではあるが、デンマーク王立バレエ団のバレエ学校やラテン学校にも在籍していた。

コペンハーゲンでの青年時代

1827年4月、22歳のとき再びコペンハーゲンに移り、23歳の秋、デンマーク王や、彼が父親のように慕っていた政治家のコリンの助力でコペンハーゲン大学に入学。24歳、「ニコライ塔の恋」という韻文ヴォードヴィルが王立劇場で3回公演され大当たりをとる。以後、生涯に30篇ばかりの様々な劇を書き、そのほとんどが上演されている。その後、遊園地ティボリでのカシーノ劇場でもアンデルセンの劇が上演されるようになった。詳しい背景の説明は、後の劇場の項(p.11)で述べるので省略する。

旅することは生きること！

「旅が人生だ！旅の生活は私にとって教養の最上の学校になった。」と彼は言っている。25歳から旅行が仕事場になった。世界各国の文豪に会いに出向いたり、各地の劇場を巡ったりした。大学を卒業できなかった彼は、旅を自分の学校として多くの旅行記を書き残した。1831年26歳の時から1873年68歳までの間30回にわたり旅行をした。スウェーデン、イギリス、ポルトガル、シシリー、マルタ島、イスタンブール、黒海など、鉄道がほとんどなかったころにヨーロッパ旅行を繰り返した。小心者で臆病なくせに、大胆な冒険を繰り返さずにいられないほど好奇心が強かった。それが創作の原動力になっている。



旅行用具

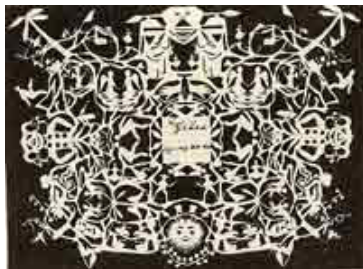
アーティストとしてのアンデルセン

アンデルセンの創造性は、童話や詩、戯曲だけでなく、切り絵やスケッチを通して自己主張が表れている。アンデルセンは小さい時から手先が器用で、人形芝居の人形の服を自分で作って、自作の劇を楽しんでいた。そして、たくみにハサミで切り絵をし、旅行先などでスケッチを残した。そんなアンデルセンの画家的才能に目をとめたのは、画家のゴッホ。1882年10月の友人宛の手紙で、童話の描写のすばらしさを称えている。「きみはアンデルセンの童話をすばらしいとは思わないか？アンデルセンがまた挿絵を書きえたことはたしかです。」

また、デンマークの画家K.ヘルトフトは、アンデルセンが残したルネサンス風衣装一組、70点の鉛筆画、250点のペン画、1100枚以上の切り絵、8面から成る屏風、紙の彫刻、コラージュなど、ふんだんに絵を入れた『芸術家としてのアンデルセン』という豪華版を出版した。



タッソー邸スケッチ



切り絵たくさんのテーマ



残っている切り絵の一部

*タッソー(1544-1599)イタリアの叙事詩人。イタリア最古、最高の貴族エステ家のフェラム公に仕えた。

バレエ「アーミーダ」のプログラム

1821年4月12日初演。アンデルセンが16歳の時にトロルの1人として初出演。アンデルセンとヨハネ・ルイーゼ・ペチェス Jphanne Luise Pägtse (後のハイベア夫人)が共演していた。プログラムには Petcher とあるが、当時8歳だった彼女は正確に発音できなかったせいだ。アンデルセン自身の書き込みにより、Pägtse と書き加えて訂正している。アンデルセン自身は、右側の下から2番目、名前の左側に星印をつけ、H.C とイニシャルが加えられている。(インキの書き足しは全てアンデルセン自身によるもの) 生まれて初めて自分の名前が印刷されたので、うれしくて1日中、印刷された文字を見ていて、寝床にまで持ち込んだらしい。



アンデルセンの作品

デンマーク語で刊行されている作品は、アンデルセン書誌によると総計1057篇。
詩歌、童話、戯曲、小説、紀行、伝記、エッセー、随筆、書簡、風刺文、ユーモア、小品文など
(1975年発行の「アンデルセンの研究」より)

ここでは、展示で紹介した資料を参考資料として明記する。

請求記号の見方: E, H - スコア、F - 声楽曲、G - 鍵盤楽譜、XD - 録音資料(CD)、VD, VE - 映像資料

アンデルセンの作品を題材にした音楽

《ナイチンゲール(夜鳴きうぐいす)》

交際を迫ったアンデルセンに、「わたくしのお兄さままでいてくださいね」と手紙で交際を断ったオペラ歌手のジェニー・リンド。スウェーデンのうぐいすと謳われた彼女は当時20歳。当時はチケットも即日完売という大人気で、着せ替え人形などキャラクター商品も販売されていた。晩年は慈善コンサートを重ね、「ジェニー・リンド奨学金」「ジェニー・リンド小児病院」も作った。現在はスウェーデン紙幣にもなっている。「夜鳴きうぐいす」は、アンデルセンが生涯愛したジェニーをモデルにして2日で書きあげた作品。そんな彼女は作曲家メンデルスゾーン(妻子あり)に恋心を抱いて、苦しい思いをしていた。あのメンデルスゾーンが、アンデルセンにとっては恋敵だったのだ。この作品は、ジェニー・リンドに捧げられた。

参考資料: 『ジェニー・リンド物語』請求記号 C60-802

音楽

イーゴル・ストラヴィンスキー Igor Stravinsky (1882-1971)

交響詩(ナイチンゲール(Solovey)) (1914)

London ; New York : Boosey & Hawkes, c1921 請求記号 E7-290

Mineola, N.Y. Dover, 2000 請求記号 H39-323

輝かしい色彩、異国的な出来事の楽しさ、アンデルセンに基づくおとぎ話風の筋書きなどが現れている。

「ブルーズ・イン・ザ・ルック」ストラヴィンスキー(うぐいすの歌) 請求記号 VD3339

歌劇「ナイチンゲール」コンロン指揮パリ国立歌劇場管弦楽団 請求記号 XD43220

「ナイチンゲールの歌」デュトワ指揮モントリオール交響楽団 請求記号 XD25270

Ludvig Syhytt (ナイチンゲール) Kobenhavn : W. Hansen, [19--] 請求記号 G14-324

チャイコフスキー「イオランタ」

請求記号 VE657

アンデルセンの童話に基づく戯曲「ルネ王の娘」をオペラ映画にしたもの。

グリーグ《君を愛す(Ich Liebe Dich) Op.5》

C.F. Peters, c1956 請求記号 F2-612

歌曲のなかでアンデルセンのデンマーク語の詩に曲をつけた(心の旋律集 Hjerterets melodier) op.5は、彼が初めて個性的なスタイルを示した作品である。

「グリーグ物語」 請求記号 VD3702

ふたつの茶色の眼 Op.5-1 請求記号 XD32969

君を愛す Op.5-3 請求記号 XD50913

ドビュッシー《西風の見たもの》

「幻想の音楽家ドビュッシー」

C.F. Peters, c1956 請求記号 VE263

前奏曲集の第1巻7曲目(西風の見たもの)は、アンデルセンの「天国の庭園」の中で西風が自分の見てきたものを語る部分から得た景色。西風はフランスで暴風を意味する。

アンデルセンの作品に影響を与えた音楽

「絵のない絵本」

1831年にメンデルスゾーンが発表した名曲(Lieder ohne Worte(無言歌))をヒントに着想して書いた。原題は“Song without words”。

音楽

溝上日出夫(1936-) (絵のない絵本)

アンデルセンが34歳の時に発表した「絵のない絵本」は20夜(現在33夜)。作曲者は演奏会のプログラムとして20曲は多すぎると感じ、前半だけまとめている。四手のためのピアノ組曲。

全音楽譜出版社, 1974, c1973 請求記号 G16-189

溝上日出夫: 絵のない絵本第2組曲 児玉邦夫、児玉幸子(ピアノ) 請求記号 XD3378

メンデルスゾーン(無言歌) 請求記号 VD1570

「メンデルスゾーン物語」 請求記号 VD3697

樽屋雅徳: 絵のない絵本(吹奏楽) 請求記号 XD47396

アンデルセンの作品からインスピレーションを受けた作品

「みにくいあひるの子」

アンデルセンは背が高くてひょろ長く、おせじにも二枚目とは言えない容姿をしていた。そのため「外国から来たオランウータン」などとひどいことを言われた。そんな劣等感を現したと言われている。この作品は、オペラ歌手、ジェニー・リンドに捧げられている。

音楽

セルゲイ・プロコフィエフ Sergey Prokofiev (1891-1953) (みにくいあひるの子)

プロコフィエフの音楽作品の真の始まりはアンデルセンの童話に基づいた「みにくいアヒルの子」である。この作品ですでにプロコフィエフのスタイルの多くの典型的な特徴が認められる。多くの人はこの意図的に選ばれた醜い雑鳥が美しい白鳥になる話に自伝的なヒントを感じるであろう。マクシム・ゴーリキは(みにくいアヒルの子)を聴いて感嘆の声を挙げた。「作曲家はこの作品を自分について書いたのだ、そう、彼自身について！」

London ; New York : Boosey & Hawkes, c1955 請求記号 F9-949

四手のためのピアノ組曲。

みにくいあひるの子 Op.18 ペーター・シュライアー(テノール) 請求記号 XD40750

「人魚姫」

「人魚姫」についてアンデルセンは、「物語の面白さだけでもそれを楽しめると信じている。話の筋だけでも充分子どもの心を奪うに違いない。」と述べ、また「この物語のより深い意味は、大人にしか理解できまい。」とも言っている。アンデルセンの童話は、子ども相手だけではなく、むしろ自分自身の人生体験を通して得た人生の真実を記すために創作されたもの。

音楽

アレクサンダー・フォン・ツェムリンスキー Alexander Zemlinsky (1871 ~ 1942) (人魚姫)
シェーンベルクとアルマ(後のマーラーの妻)の師。

交響詩(人魚姫)(1905)

- 第1楽章：海底 / 人間界の人魚姫、嵐、王子の救出
- 第2楽章：恋する人魚姫、海の魔女のところで、王子の結婚式
- 第3楽章：人魚姫の最後

1905年1月25日、ウィーン音楽芸術創造家協会が主催のコンサートで、作曲者自身の指揮、コンツェルトフェライン管弦楽団(現在のウィーン響)によって初演された。ツェムリンスキーは続いて予定されていたベルリンでの再演をキャンセルし、出版の機会も失われた。理由は物語の劇的描写を活かしつつ、人魚姫の最後、つまり自己犠牲や永遠性に焦点をあてた交響曲化を目指していた、との意見が有力。

ツェムリンスキーはその後、プラハの新ドイツ劇場などで指揮者として活躍したが、ナチスに追われ北米へ。第1楽章はウィーンに残されたが、第2・3楽章のオリジナル楽譜は一緒に大西洋を渡ったようだ。よって曲は長らく文献のみに記載された幻の交響詩となる。

生誕100年を機に再びツェムリンスキーに目が向けられるようになり、ウィーンとワシントンの図書館に分散保管されていた交響曲のスコアが、実は(人魚姫)だったことが判明。1984年秋、ペーター・ヴェンの楽譜校訂で名高い音楽学者で指揮活動も多かったペーター・ギュルケとオーストリア・ユース・オーケストラによって、ウィーンで歴史的な蘇演が行なわれた。

交響詩(人魚姫) リッカルド・シャイー指揮、ベルリン放送交響楽団 請求記号 XD3539

アン・ボイド(人魚姫) New York:G.Schirmer,c1980 請求記号 F10-261

磯部倅作曲、いそべかず作詞(小さな人魚姫のものがたり)女声合唱組曲 音楽之友社,1992 請求記号 F17-753

1991年、湘南女声合唱団創立25周年記念演奏会で初演。

矢野義明(人魚姫) こどものためのピアノ組曲 op.57 リューギンシャ 1993 請求記号 G25-154

三浦真理(人魚姫)ピアノのためのファンタジー ムジカノーヴァ:音楽之友社,1997 請求記号 G27-046

「ムジカノーヴァ」の連載のために書き下ろされた作品。

リトルマーメイド(Disney) 請求記号 VD1287

アンデルセンの童話「人魚姫」をミュージカル・アニメーションに仕上げた。原作とは異なり、ハッピーエンドに終わっている。

「はだかの王様」

初めて日本で訳されたのは1888年(明治21年)、河野政喜が「諷世奇談王様の新衣装」という標題をつけて単行本を出した。原題の「皇帝の新衣装」に近い訳だった。その後、坪内逍遙が早稲田大学の狂言に「裸か大名」と翻訳した。それ以来「はだかの王様」と親しまれるようになった。

音楽

ダグラス・ムーア(はだかの王様) New York:C.Fischer,c1948 請求記号 F13-696

ジャン・フランセー(はだかの王様) New York:Associated Music Publishers [c1936] 請求記号 G5-363

バレエ音楽。原曲はオーケストラだが、ピアノに編曲されている。

(はだかの王様)子どものためのオペレッタ:梶山正人オペレッタ曲集. II

一莖書店, [1989] 請求記号 F19-644

千葉教授学研究会。動きや構成など。

「裸の王様」 請求記号 VD561

フランス: 舞踊音楽「はだかの王様」 請求記号 XD55528

「マッチ売りの少女」

木版師のフリックがアンデルセンに3枚の絵を送り、彼の編集する民衆カレンダーのために、そのうちの1枚をもとに童話を書いてほしいと頼んだのがきっかけで書かれた。哀れな貧しい少女の絵を選んだのは、自分の貧しい時代を想起したからだろう。また、アンデルセンのお母さんは、子どものころ両親から物ごいを強制され、1日じゅう橋の下で泣いていたという思い出を彼に語って聞かせていた。その話に基づいているのではないかという説もある。



マッチ売りの少女を創る
きっかけになった絵

音楽

斎藤高順(マッチ売りの少女)ピアノ絵本館4 全音楽譜出版社, 1987 請求記号 G21-107

いそべかず作詞, 磯部俣作曲(マッチ売りの少女のおはなし) 音楽之友社 2000 請求記号 F21-910

江東少年少女合唱団が創立30周年の会の時に演奏された女声合唱組曲。

アウグスト・エナ: 歌劇「マッチ売りの少女」 デンマーク放送交響楽団 請求記号 XD47639

「小さなイーダちゃんの花」

詩人ティーレの家で小さいイーダちゃんに植物園の花のことを話してやってから、この話はできた。この子の言ったことをいっくらか覚えていて、この童話を書き下すときに再現した。

音楽

Paul von Klenau(イーダちゃんの花(Klein Ida's Blumen))

Wien: Universal Edition, c1916 請求記号 G7-034

「役にたたなかった女」

アンデルセンのお母さんのみじめな労働について悲惨に書かれている。彼女は冷たい川の中で洗濯女として長時間働いたため体を悪くし、それを紛らすためにアルコール中毒になった。アンデルセンが奨学金でイタリア旅行をしていた間に死んでしまった。母親の死後に創作されたこの童話には、無慈悲で身勝手な階級社会や、それと結託している宗教への深い憤りや皮肉がこめられている。

音楽

関連作品: 蒔田尚昊作曲, 中山知子詩(アンデルセン組曲: ある母の物語)

全音楽譜, 1975 請求記号 F9-787

杉並児童合唱団。初演 1974年。

アンデルセンと作曲家たち

J.P.E.ハートマン Johan Peter Emilius Hartman(1805-1900)

アンデルセンと同じ年に生まれた作曲家。(小さなキアステン(合唱曲) Liden Kirsten) (Foraarssang(春の歌))などいくつかの作品を残している。(小さなキアステン)はデンマークの民族的精神に強く根ざしていたが故に、デンマーク国外での上演は限られていた。1841年に、ハートマンはリストとアンデルセン他友人3人を自宅に招待している。1856年、アンデルセンとJ.P.E.ハートマンの両方と親交があったフランツ・リストは、ワイマールで(小さなキアステン)を上演した。しかし、その後はリストの努力にもかかわらず上演のチャンスは訪れず、デンマーク国外での上演は1世紀半後の1997年5月のモントリオールでのことだった。リストが(小さなキアステン)を作曲するという話もあったが、残念ながら実現されなかった。歌劇「小さなキアステン」 請求記号 XD41707



ロベルト・シューマン Robert Schumann (1810-1856)

歌曲の年と呼ばれる1840年の作品のうちで最も印象的な作品の1つを生み出す。1840年7月16日から18日にかけて、アンデルセンの4つの詩(A.シャミッソー独語訳)と、ギリシャの民謡1つに作曲した(5つのリート) op.40だ。作曲後、シューマンはすぐにアンデルセンに直接伺いの手紙を書いている。この作品は、1842年10月にアンデルセンへ献呈された。シューマン32歳、アンデルセン37歳の時のこと。

「私自身あなたの詩に初めて出会った時には同じように感じたのです。ところが、あなたの詩をよく知るようになるにつれ、私の音楽の性質も風変わりなものに変わっていきました。だから、すべてはあなたのせいなんです。あなたの詩に作曲しようとすれば、『咲け、愛らしいスマレよ』といったような詩に曲付けすると、同じような具合にはいきませんから。」

合唱の年と呼ばれる4年後の1844年7月22日の夜、アンデルセンはライブティフヒのシューマン夫妻を訪問している。この日の日記には、「夫人のクララはとても愛すべき人」と記されている。その翌日、『ゲーテのファウストからの情景』の(神秘の合唱)の作曲に着手し始めていたロベルトは、アンデルセンに草稿の一部を手紙と一緒に送っている。シューマンは、「幸福のオーヴァーシューズ Lykkens Kalosker(幸福の長靴)」に関心を持つ。「これは魔法にかかったような美しいオペラになる」と考え、少なくとも翌年の4月まで出版を考えていたが、精神状態が悪化し、全ての仕事を中断していた。結局、この劇作品がシューマンの舞台音楽と統合することは叶わなかった。

当時、ドイツでは、有名な音楽家は器楽曲の作曲に精を出し、歌曲はあまり関心がなかった。よって、詩と音楽の融合はあまり行なわれていなかった。ヴァーグナーの楽劇の少し前のことである。シューマンだけは、「子供の情景」のように1曲1曲が歌曲のように抒情的で美しい旋律で詩的に表現され、アンデルセンの童話の世界に通じるものがある。根底の“詩”という共通の芸術が2人を結びつけていたのだろう。

5つの歌 Op.40 請求記号 XD50487

クララ・シューマン Clara Schumann (1819-1896)

アンデルセンは1842年3月22日のクララのコンサートにも足を運んだ。ロベルトへの手紙に、「アンデルセンは容姿が醜い上に、さらに可笑しい表情をするので、すぐに打ち解けた。不器用でどこか不器用だが知的で、知れば知るほど好きになる人」と書いている。それを受け取ったロベルトは、アンデルセンのシャミッソー訳の4つの詩は既に知っていたようだ。

また、クララが手紙で残しているように、「アンデルセンの作品は彼の故郷のデンマークでは、あまり受け入れられなかった」のが残念だ。

フランツ・リスト Franz Liszt (1811-1886)

リストはアンデルセンにとって「新時代のオルフェウス」と呼ばれるほどインスパイアされていて、リストの演奏はアンデルセンの美学形式の基になった。

アンデルセンは最初、リストを「ペテン師」と呼んでいた。1840年、アンデルセンは9ヶ月近くを外国ですごした。1ヶ月間のドイツの後、ハンブルクに移動し、当時29歳だったリストのピアノ・リサイタルを聴いた。その時の模様は日記に以下のように記されている。

「激しい情熱をこもらせるあまり、蒼白な顔になってピアノの前に座ったとき、リストはこれから自分の魂が解き放たれようという悪魔のように見えた。その血と魂から流れ出てくる調べは、その1つ1つが苦悶にあえいでいるようだった。しかし演奏がつづいていくうちに、その顔は生色を帯び、悪魔の中から神が顕現してくるよう見えた。妙に響く水滴のような調べが流れ始めた。婦人たちの瞳が輝いた。演奏会のフィナーレには、リストに向かって花束が投げられた。」
1840年11月6日の日記より

しかし、1841年7月24日、コペンハーゲンに戻る時にヨーロッパツアーに来ていたリストの演奏を再び聴く機会があった。この演奏を聴いたアンデルセンの美学的な基準は大きく変わった。あこがれ、ロマン的魂と、芸術、科学技術の進歩の中で苦しい共生のイメージでリストは描かれた。リストは「オルフェウス」であり、対話者となった。「一詩人のパザール」の草稿はリストをモデルにしている。

ハートマンの家で、他の友人3人と一緒に食事に招待されたアンデルセンは、リストが私を友人と見なしてくれた証だと、とても興奮して友人のハンクに手紙で綴っている。

1851年のアンデルセンの手紙の中には、「ワーグナーの『タンホイザー』と『ローエングリン』の2つの有名な楽劇の上演の手はずを整えてくれたのはリストです」と書かれている。アンデルセンはリストを訪ね、彼の好きな童話「夜鳴きうぐいす」を読んで聞かせた。1856年、ワイマールでアンデルセンの戯曲「小さなキアステン」を上演したのは先に既に述べた。

1857年9月5日、「ゲーテ、シラー、ヴィーラントの記念碑除幕式の祝典」での演奏会に招待された。翌日のリストの晩餐会の席で、別れも告げずに立ち去り、決別を迎えた。憶測に過ぎないが、新しい文明の発達に敏感だが、革新的な考えや政治的な思想を苦手としたアンデルセンは、リストの革命的なにおいに尻込みしたのではないだろうか。

ヴァイマール宮廷音楽監督としてのリスト(当時46歳)がこの日のために作曲した(ファウスト交響曲)第3楽章:メフィストフェレスを聴いた感想が日記に書かれている。

「荒々しく、耳ざわりで、わかりにくく、間でシンバルが何回も鳴らされた。最初にシンバルの音を聞いた時には、金属の板が落ちたのかと思った。あれは悪魔的な音楽だ。」

「of MEN & MUSIC」 リスト(ファウスト交響曲)第3楽章メフィストフェレス 請求記号 VD2886

フィリップ・メンデルスゾーン Mendelssohn-Bartholdy Felix (1809-1847)

メンデルスゾーンは、「ただのヴァイオリン弾き」を病床で読んで感激し、ライプティヒに来ることがあれば自分を訪ねて欲しいと、アンデルセンの養父同様のコリンに頼んでいた。

1840年10月10日、メンデルスゾーンのリハーサルでベートーヴェンの交響曲第7番を聴いたアンデルセン。夕食招待されたが辞退し、ライプティヒに戻る途中にまた訪れると約束した。その夜に手紙と一緒に〈小さなカノン a2〉の楽譜が送られた。(展示資料参照)

翌年の7月には4日間もメンデルスゾーン一家の歓待を受け、幾度となく演奏を聴いた。

アンデルセンはメンデルスゾーンのオルガン即興演奏に深く感動し、音の洪水のようだと表現した。バッハの曲とメンデルスゾーン自身の曲を演奏してくれたお礼に、小さな詩を書いた。無言歌から着想を得た「絵のない絵本」については前述の通り。

ヨハン・シュトラウス Johann Strauss (1825-1899)

シュトラウスは多くの外国人が訪れた上流階級の社交場「シュペルル」と契約していた。

1829年の夜会の模様を自伝に書き記している。アンデルセンが聴いた曲は、おそらく〈シュペルル祝祭のワルツ Sperls Fest-Walzer 〉Op.30と思われる。

『私はヒーティングでシュトラウスに会い、その演奏を聴いた。

彼は自身の管弦楽団の中央、つまりワルツが奏される舞台全体の中心に立っていた。

旋律が次々にあたかも彼の体内からあふれ出てくるかのように思われた。

その瞳は光り輝いていた。彼がこの土地のスターであり、

指導者であるということは一目瞭然であった。』 (ニューグローブ音楽事典より)

ヨハン・シュトラウス 請求記号 VD74

ジョアッキーノ・ロッシーニ Gioacchino Rossini (1792-1868)

1866年、61歳のアンデルセンはパリにいるロッシーニを訪問し、温かく歓迎されたが、74歳だったロッシーニは、「いくぶん姿勢が前かがみで、あまり清潔ではなかった」らしく、音楽会の招待も受けなかったようだ。

エドヴァルド・グリーグ Edvard Grieg (1843-1907)

民族ロマン主義時代の最も重要なノルウェーの作曲家。歌曲のなかでアンデルセンのデンマーク語の詩に曲をつけた心の旋律集 Hjerterets melodier op.5 は、彼が初めて個性的なスタイルを示した作品である。

フランツ・ヨーゼフ・グレーザー Franz Joseph Glaser[Glaesser] (1798-1861)

1845年にコペンハーゲンの宮廷指揮者に任命され、以後の人生をこの地で過ごした。デンマーク語のオペラを3作書いたが、うち2つの〈コモ湖畔の結婚式 Bryllupet ved Como-soen〉(1849.1.29)と〈水の精 Nokken〉(1853.2.12)は、アンデルセンの台本によるものであった。

*グレーザーの作品の大規模なコレクションは、コペンハーゲンの王立図書館、ベルリンのドイツ国立図書館、ウィーンの楽友協会に所蔵されている。残念ながら当館には所蔵していない。

ニコライ・アレクサンドロヴィチ・ソコロフ

Nikolay Alexandrovich Sokolov (1859-1922)

幾つかのより小規模な作品やハンス・アンデルセンの物語に基づく2つのバレエ曲には、作品にふさわしい軽やかな様式が見られる。

ヴァディーム・ニコラエヴィチ・サルマノーフ

Vadim Nikolayevich Salmanov (1912-1978)

最も興味深い作品の一つに、交響組曲 (詩的絵画 Poeticheskiye kartinki) がある。これはアンデルセンの物語によるもので、1955年に発表された。微妙な音の響き、穏やかな叙情性が際立っており、この時期のサルマノーフの代表作といえる。

【アンデルセン博物館には、アンデルセンの作品から影響を受けて生み出された数百曲にも及ぶ音楽をデータベースに収められている。】

コペンハーゲンの劇場について

アンデルセンが戯曲を書き始めた頃、コペンハーゲン市内には、劇場は王立劇場ただ1つしかなかった。つまり、演劇に関する独裁権を持っていたのである。なので、公認ではない、いわゆる「もぐりの劇場」がいくつか存在していた。演劇関係者に機会が恵まれていなかった背景で、アンデルセンは劇作家として成功していた。

コペンハーゲンに民間劇場が初めて誕生したのはハンス・ランゲ H.V.Lange である。1848年に即位したばかりのフレゼリク7世に申請書を提出し、受け入れられたのだ。こうして1848年12月26日にオープンした「カシーノ」の発展には、アンデルセンの尽力が大きい。当時、王立劇場で一度上演された作品は、その後の上演権が王立劇場にあったため、「カシーノ」では新作か、新たに書き下ろした脚本を使わなければならなかったからだ。ちょうど駆け出しで名もなかったアンデルセンには、作品を提供するのに好条件であった。アンデルセン自身の言葉では、初演の時に2500人も客が劇場に押しかけ、その後も連日満席になったと記されている。この頃は王立劇場以外で作者に稿料を支払う習慣はなかったが、当時にしては珍しく、ランゲは稿料を支払っていた。

アンデルセンの時代の王立劇場は、現在の建物とは違う。当時はきしむドアと狭い階段、曲がりくねった廊下という劣悪な施設だった。切符の大部分は劇場が売らず「切符屋」に売られていた。階級制度が厳然と残っていた当時、天井桟敷が庶民の席だった。8名の席に定員を超えた12~14名を詰め込まれるのは当たり前のことだった。その他に天井裏席というものもあった。これは客席ではなく、単に舞台の上の空間に過ぎず台詞も聞き取りにくかった。また、食料を持ち込む者も多かったらしく、ピンやりんごの芯などが出演者の頭に落ちるといふ坊げもあったようだ。



コペンハーゲン王立劇場 (当時)



コペンハーゲン王立劇場の
天上桟敷



1850年代のカシーノ前

参考文献

- Hans Christian Andersen and music Ashgate, c2005 Anna Harwell Celenza 請求記号 J104-085
アンデルセンのヨーロッパの作曲家たちとの交流について、日記や手紙を通して書かれている。シューマン夫妻、メンデルスゾーン、リストらと交友関係があった。特にリストについては、「新時代のオルフェウス」と呼び、アンデルセンの対話者だった。「一詩人のバザール」の草稿のモデルとしてリストを利用したりと、リストはアンデルセンにとって、美学形式の基準となるほどの影響を与えた。
- アンデルセン自伝：わが生涯の物語 大畑末吉訳 岩波書店, 1981 請求記号 J43-040
1831年に書かれた26歳までの自伝。荒削りで誤りもあるが、率直でありのまま。「わが生涯の物語」の方は作為が多い。
- アンデルセンの世界 山室静著 弥生書房, 1985 請求記号 J59-744
童話以外の作品やスケッチ、切り絵も多く収められている。
- アンデルセンの時代 早野勝巳著 東海大学出版会, 1991 請求記号 J73-495
アンデルセンを取り巻く人々や、生涯かかわった劇場などについて詳しく述べられている。19世紀のデンマークの時代背景や生活、街の様子なども詳しく知ることができる。
- アンデルセン童話の深層：作品と生いたちの分析 森省二著 創元社, 1988 請求記号 J60-676
アンデルセンの童話への精神分析的アプローチがなされていると共に、それぞれの作品のあらずじが簡単に紹介されている。
- 即興詩人 小説・紀行文学全集 2巻 東京書籍, 1987 請求記号 J59-547
全10巻から成る。1835年に出版した最初の小説。この作品は、発表当時かなりの反響を呼び、ヨーロッパ各国で翻訳出版されてアンデルセンの出世作となったが、現在は「結局はメロドラマ、安っぽいラブロマンスに過ぎない」と評価され、随外訳を得た日本以外で顧みる者はほとんどいない。
- アンデルセン生涯と作品 エリアス・ブレンドーフ著, 高橋洋一訳 小学館, 1982 請求記号 J33-534
巻頭と巻末に、世界各国から発行されたアンデルセンの切手がある。
- アンデルセン研究 日本児童文学学会編 小峰書店, 1969 請求記号 J17-914
執筆者それぞれの角度からアンデルセンの横顔を記述したものをまとめた書。
- グリム兄弟とアンデルセン 高橋健二 東京書籍 1987 請求記号 J59-192
- アンデルセンの研究 平林広人 東海大学出版会 1967 請求記号 J42-529
- ハンス・クリスチャン・アンデルセン その虚像と実像 鈴木徹郎 東京書籍 1979 請求記号 J38-512
年譜や人名索引あり。
- 『ロマン主義と革命の時代』西洋の音楽と社会 7巻 請求記号 C60-802
ジェニー・リンドの人気ぶりやメンデルスゾーンとの共演についても記されている。
- アンデルセンと音楽 - ロマン派作曲家たちとアンデルセン - 田辺欧著
アンデルセン研究 日本アンデルセン協会 2000年6月(18) p.1-24
* 当館では所蔵していませんが、文献複写を取り寄せることは可能です。

参考作品

Julia Smith (ひつじ飼いのむすめと、えんとつそうじ屋さん)

New York : Mowbray Music Publicshers c1978 請求記号 F13-639

クリスマスオペラ。アンデルセンは1835年に最初の童話集を発表し、その後、毎年、クリスマスの時期に新しい童話集を発表している。

August Enna (ひつじ飼いのむすめと、えんとつそうじ屋さん) Kjobenhavn : W. Hansen 請求記号 G14-123

ポプーリ(1つまたは2つ以上のオペラから採った旋律をつないだもの)から成る。

寺内園生作曲 (ピアノでひこうアンデルセンのお話) いちごシリーズ 16

東京音楽社, 1989 請求記号 G22-871

アラン・ホディノット (父さんのすることに間違いなし) 児童オペラ

London : Oxford University Press, [1980] 請求記号 F14-460

台本と作詞 中山知子, 作曲 増本伎共子 (くつやと小びと)

水星社, 1992 請求記号 F18-315

1969年初演。少年少女のための合唱ファンタジー。

作詞 中山知子, 作曲 増本伎共子 (くつやと小びと)

アノン企画 請求記号 F10-897

連弾と合唱。

「赤い靴」バレエ映画 請求記号 VB2546

童謡つき よみきかせ絵本 2 成美堂出版 2003 請求記号 J100-796

童謡つき よみきかせ絵本 24 成美堂出版 2004 請求記号 J103-713

(マッチ売りの少女) こどもの歌名曲集 松田敏江編 全音楽譜出版社 [1981?] 請求記号 F8-629

シェンヴァント指揮デンマーク国立歌劇場管弦楽団 請求記号 XD41708

テルネフェルト: 歌劇「ある母の物語」 請求記号 XD42365

ユッカ・リンコラ: 映画「雪の女王」からの音楽 請求記号 XD4016

童話

アンデルセン童話選 上下 大畑末吉訳 岩波少年文庫 55 岩波書店 1968 請求記号 J7-284, J7-287

アンデルセン童話全集 3 大畑末吉訳 講談社 1963 請求記号 J31-650

アンデルセン童話全集 4 平林広人訳 講談社 1964 請求記号 J31-651

アンデルセン童話全集 5 矢崎源九郎訳 講談社 1964 請求記号 J31-652

アンデルセン童話全集 6 山室静訳 講談社 1964 請求記号 J28-442

アンデルセン童話全集 7 林穰二訳 講談社 1966 請求記号 J28-443

アンデルセン童話全集 8 大畑末吉訳 講談社 1966 請求記号 J31-653

図書館展示 2006.1.10-3.17

アンデルセンに魅せられて

～生誕 200 年を祝して～



国立音楽大学附属図書館 2006.1.20
編集 広報委員会:高田涼子